

住み慣れた「まち」で

生き生き！安心！これからも…

(福)三浦市社会福祉協議会

県の最南端に位置する三浦市は、三方を海に囲まれた風光明媚な観光地です。第一次産業を中心に、これまで遠洋マグロの基地としても発展してきました。現在の人口は約四万八千人、高齢化率は約二九%、県下でも少子高齢化が進んだ「まち」です。

目の前の困りごとを見逃さない

三浦市社協（以下、「市社協」）では、昭和五十一年の法人化を契機に事業型社協としての歩みを進め、介護保険事業や障害者自立支援法による事業を展開し、「目の前の困りごとを見逃さない」をモットーに活動を推進してきました。しかし、一連の事業を実践する中で、判断能力が低下した方々にとって、福祉サービスの市場競争や契約というしくみだけでは、本人の「自立した生活」にはつながらないと気づかされました。

そこで必要となる支援が、日常生活自立支援事業や成年後見制度

に代表される、権利擁護事業です。市社協では地域福祉活動計画において、これらの事業の充実・普及を取り上げてきましたが、後見人等の担い手不足など、行き詰まりを感じる場面が多々ありました。

そこで、市の成年後見の推進に向け、中心的な役割を担うべく、市社協では本年度から「法人後見事業」を開始するとともに、行政を巻き込み、成年後見に関わる機関・団体の連絡会を組織しました。また、この連絡会のネットワークがきっかけで、本年度、市民の皆さんに成年後見制度を身近に知ってもらう啓発事業の企画・実施にもつながっています。



神田織音さんの講演では、会場の皆さんが、講演の語りの中に引き込まれていました

市民に向けて発信！

「市民まつり」を活用した「無料相談会」では、弁護士や社会福祉士等、関係機関・団体の皆さんにご協力いただきました。また地域包括支援センター（市社協受託）と協働で、「講演で学ぶ成年後見制度」と題し、高齢者虐待や成年後見の講演と、弁護士との制度説明の場を設けています。両事業とも大盛況で、市民の皆さんの関心の高さを再確認する場となりました。

市社協の取り組みは始まったばかりですが、担当理事制の導入など、機構改革や体制整備に着手し、一人ひとりの職員も経験の蓄積に努めています。今後も市民の皆さんの関心に応える事業を展開し、実践を積み重ねていくことが、今、市社協に課せられた大きな課題です。

そのためには、成年後見人等の確保や関係機関・団体の連絡会への予算措置等、行政との連携による事業展開が強く求められます。市社協では、今後も社協の公共性を生かした、権利擁護の取り組みを推進してまいります。

(三浦市社会福祉協議会)

「福祉タイムズ」への「意見・」感想をお待ちしています！
kikkaku@knsyk.jpまでお寄せください。

発行日 2012年平成24年2月15日 毎月1回15日発行 発行所 〒221-0844 横浜市中区神奈川区沢渡4番地の2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 TEL 045-311-1423 FAX 045-312-6302 編集発行人 鈴木和夫

印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所

防火管理者の皆様へ

消防用設備等点検時には**無償**で点検推進指導員を派遣し防火管理者の立会を支援いたします。

図上演習のすすめ②

(執筆) 神奈川温泉地学研究所 杉原英和次長

「図上演習」は、表のように2つに分けられます。上段の「イメージトレーニング型」は、災害のイメージを描けるようになることが目的で、一人で自習するもの、グループで討議しながら行うものがあります。いずれも災害をイメージすることによって被害の軽減や準備に結びつけることが期待されます。

下段の「対応型」は、実際の災害時と同様に時間制限を設ける中で、情報収集や意思決定のツボを習得することが目的の演習です。与えられた状況に対して災害時の役割を模擬的に経験することによって対応能力の強化が期待されます。(次号に続く)

イメージトレーニング型図上演習	<非討議型>自習方式>ストーリーシミュレーション、目黒メソッド、家庭内DIG、防災ゲーム
	<非討議型>講師主導方式>状況予測型
対応型図上演習	<討議型>防災グループワーク、ワークショップ、DIG、クロスロード、図上検討会
	<単一領域>避難所運営ゲーム (HUG)、災害医療、広報演習
	<複合領域>災害対策本部 (初動) 対応、指揮所演習

【参考資料】「図上演習」図上演習研究会編：吉井博明他（内外出版）

消防用設備の 安心を保障します



(財)神奈川消防設備安全協会
☎ 045-201-1908